令和６年度 事　業　報　告　書

自　　令和６年４月１日
至　　令和７年３月31日

金沢医科大学氷見市民病院

重点事業
全８項目中
A:　２項目（２５％）
B:　４項目（５０％）
C:　１項目（１２％）
D:　１項目（１２％）
E:　０項目（　０％）

その他の年度事業
全　４項目中
A:　１項目（２５％）
B:　２項目（５０％）
C:　１項目（２５％）
D:　０項目（　０％）
E:　０項目（　０％）

評価基準
A：計画目標を達成できた（100％達成）
B：ほぼ達成（70～99％）
C：半分程度の達成（40～69％）
D：一部達成（10～39％）
E：事業の延期・中止等（0～9％）

目　次

【全部門重点課題】 1
（１）財政健全化に向けた対応 1
（２）全教職員の働き方改革の実践 1
（３）経費削減の推進（特に節電・節水） 2

【重点事業】 3
（１）医師の働き方改革の実践 3
（２）初期臨床研修医の確保 3
（３）医療スタッフの確保対策 3
（４）病院機能の見直し（患者増加、増収対策） 4
（５）地域医療連携と地域貢献の推進 5
（６）新型コロナウイルス感染症を含む新興感染症に関する院内対策の見直し 5
（７）氷見市との協定改正に係る協議の推進 6
（８）部門システムの更新（病院情報システムの計画的な更新） 6
【その他の年度事業】 7
（１）氷見市との連携 7
（２）令和６年能登半島地震に伴う能登地区への支援 7
（３）経営管理指標 8

金沢医科大学氷見市民病院　損益計算書及び貸借対照表 9

【全部門重点課題】

（1）財政健全化に向けた対応

≪氷見市民病院部門≫

- 入院患者数のこまめなコントロールにより、診療実績の向上を図る。
- 新規患者獲得のため、救急の患者受入体制を強化する（不搬送件数の減少に努める）。
- 機能評価係数「複雑性係数」のアップを図る（整形外科、脳神経外科、一般・消化器外科の手術件数の増加）。
- 人件費は経常支出の中で最大の部分を占めているため、職員定数の適正化・適正な定員管理を実施する。また、医師の給与については、手当の見直し等を行い、給与の適正化を図る。
- 毎月の「病院運営会議」、「病院部科長会」にて病院の収支を報告することで、現在直面している経営環境や経営状況を把握し、経営参画への意識づけに努める。

【達成状況】

- 医師の給与については、当院開設時の給与がこれまで一度も見直されていなかったが、医師数等当時と状況が異なることから、氷見勤務医師手当について、減額することとした。令和 6 年度から 2 年にかけて段階的に減額することとしている。
- 毎月の運営会議及び部科長会にて財務報告を実施。
- 時間外労働時間については、960 時間以内となり、A水準を維持している。
- 診療科間で連携し、救急患者の受入を強化し不応需の件数を減らすよう体制の構築を図ったため、不応需件数が減少した。
- 令和 7 年度機能評価係数は 0.0476 で効率性係数の減少のため前年度比 0.0027 減となった。

（2）全教職員の働き方改革の実践

≪氷見市民病院部門≫

- 男性の育休取得を促進する（目標 20%）。

【達成状況】

- 超過勤務の削減については、毎月の衛生委員会にて各部署の平均、前年度比を報告し、削減への協力を呼び掛けているが、前年度に比べ減少が少ない。
- 医師の働き方改革については、特定行為看護師、医師事務作業補助者の配置、また検査技師、放射線技師、臨床工学技士等の業務拡大により負担軽減を図っている。
- 男性の育休取得については、対象の男性職員（令和６年度は６名）に説明・意向確認は行っているものの、いまだ取得には至っておらず、引き続き取得促進に努めたい。

（３）経費削減の推進（特に節電・節水）

≪氷見市民病院部門≫

・ ジェネリック医薬品採用数量シェア 90%以上を継続する。

・ 医療材料等の購入の適正化を図り、対医療収入比を 10.0%以下に抑える。

【達成状況】

- シェア率：92.7%（令和６年４月～令和７年２月実績）
- 医療材料対医療収入比：9.4%（令和６年４月～令和７年１月実績）

４．氷見市民病院部門

【重点事業】

（１）医師の働き方改革の実践

【中間評価】B　　【達成度】B

○　A水準を維持（医師の時間外労働の年間上限960時間）するため、労働時間適正化に向けた取り組みを行う。

・　外勤を含め年960時間を超過することがないよう個々の管理を厳重に行うため、医師の外勤に関する内規を制定し、外勤の管理を徹底する。

・　医療技術職のタスク・シフト、タスク・シェアを進める。

【達成状況】

➢　外勤の管理については、医師の外勤に関する内規の制定、就業規則への明記を行った。内規に反する医師には病院長から直接指導を行っている。

➢　検査技師、放射線技師、臨床工学技士等について、厚生労働省の指定する研修を受講し、業務範囲の拡大を進めている。

➢　A水準は維持された。

（２）初期臨床研修医の確保

【中間評価】A　　【達成度】D

○　令和5年度は、募集定員3人中3人確保し、初めてのフルマッチとなった。引き続き、マッチ率100%を維持する。

・　本学卒業生の獲得に向け、見学会や合同説明会に参加するなどにより、当院の魅力をアピールしていく。

【達成状況】

➢　令和6年度については3名の募集定員のところ、3名のマッチングが成立しフルマッチとなったが、内2名が卒延となり1名の採用となった。本学5年生の臨地実習は順調に行われており、当院の魅力を発信できるよう努めている。

（３）医療スタッフの確保対策

【中間評価】D　　【達成度】B

○　慢性的な医療スタッフ不足が生じており、再雇用による継続でしのいでいるが、高齢化が進んでおり、必要なスタッフを確保できない状況である。

・　学校訪問や定期的な病院説明会の実施等の活動を通し、医療スタッフの確保に努める。

・　看護師20名・薬剤師3名・臨床検査技師2名を確保する。

【達成状況】

- 看護師は、国試の結果27名の採用となり、令和7年4月には人員がほぼ充足する見込みとなっている。
- 薬剤師については、応募がない状態であり、本院からの派遣を依頼している。
- 臨床検査技師は2名採用した。

（4）病院機能の見直し（患者増加、増収対策）

【中間評価】B　　【達成度】B

○　救急医療を確保する。

・ 外来診療体制の見直しや大学救命救急科、本学卒業生の当直応援を継続することで、救急医療体制を強化し、断らない診療体制を構築する。

○　入院期間の短縮による新入院患者数の増加を図るため、施設基準維持及び診療実績最大化のための取り組みを行う。

・ 施設基準指標（平均在院日数、重症度、医療・看護必要度）に応じて、随時きめ細やかな在院日数コントロールを行う。

・ 整形外科・脳神経外科患者の回復期リハビリ病棟への早期転棟を促し、急性期治療患者の新規入院患者数増加を図る。

○　回復期リハビリテーション病棟入院料を格上げする。

・ 回復期リハビリテーション病棟入院料3から1へ格上げするために、急性期病棟から早期転棟し、重症度割合（40%以上）の確保に努める。

○　増収につながる施設基準管理を徹底する。

・ 入退院支援加算1を取得する。

○　紹介、逆紹介率の向上を図る。

・ 近隣医療機関を訪問し、最新治療の情報提供を密にし、紹介患者数の増加を図る。

・ かかりつけ医（紹介元医療機関）への逆紹介を増加し、連携強化を図る（適時返書の送付と診療情報提供書の充実）。

○　患者満足度向上への取り組みを推進する。

・ 待ち時間の緩和のための、案内表示機能の改善を図るなど環境整備に取り組み、待ち時間短縮に向けた啓発を行う。

【達成状況】

- 採血掲示板を増設し、より広範囲で順番等確認できる環境に整備した。
- コロナ禍により対面での開催を見合わせていた接遇研修会を開催。基本的な内容を振り返る内容とした。
- 令和6年6月から急性期一般入院料の1における平均在院日数の施設基準が16日となったため、令和6年8月に急性期一般入院料が1→2へ格下げ、令和6年10月に2→3へ格下げした。

- 令和６年８月から重症度、医療・看護必要度が 21%を下回り、施設基準不可となる。
- 令和６年８月から回復期リハビリテーション病棟入院料１へ格上げした。
- 令和６年 12 月から入退院支援加算１に格上げした。
- 令和７年１月から入院時支援加算を新規算定した。
- 病診連携カンファレンス（２回開催）、地域医療懇談会（１回開催）等を定期的に開催し情報提供・共有を行い紹介・逆紹介を図っている。
- イベント毎に診療情報提供書を作成するよう医局会等で促し、連携強化を図っている。

（５）地域医療連携と地域貢献の推進

【中間評価】B　　【達成度】B

○　地域の医療機関、福祉介護施設及び医師会、行政との連携推進を図る。また、在宅医療支援体制を推進する。

・ 介護・福祉機関との連携・情報共有システムの体制を強化・活用（バイタルリンクを使用した連携強化）する。

【達成状況】

- 連携医療機関を締結した医療・介護福祉機関へバイタルリンクの導入を促し、市内 12 医療機関にＩＣＴを活用した連携・情報共有を図っている。
- かかりつけ医や介護施設が導入し、退院支援カンファレンスに活用している。

（６）新型コロナウイルス感染症を含む新興感染症に関する院内対策の見直し

【中間評価】A　　【達成度】A

○　５類移行後の診療体制（病床確保・発熱外来等）の整備を行う。

・ 病床単位での新型コロナウイルス患者受入に向けて、ハード面・ソフト面双方において体制整備を行う。

・ 発熱外来の院内への移行を見据えて、動線確保などのハード面の体制整備を行う。

【達成状況】

- 一般成人の発熱外来担当医制度を廃止のうえ、午後診療の内科医師が診察している。HEPA フィルター付きパーテーション等を利用するなどのゾーニング等の対応を実施のうえ、通常診療への移行に向けて段階を踏んで着実に対応している。
- ５西病棟陰圧室の増設（４部屋）と自動ドア（２基）の設置工事を令和７年３月完了し、県より使用許可受諾済み。
- 個人防護具２ヶ月分の備蓄について、配備済み。

（７）氷見市との協定改正に係る協議の推進

【中間評価】D　　【達成度】C

○　2028 年 3 月に指定管理期間が満期となるため、満期の 2 年前（2026 年 3 月 31 日）までに継続について決定しなければならない。再契約の場合は、現協定書を見直し、本学経営に適正な協定を結ぶ必要があるため、法人から指導を受けながら、氷見市と協議を進める必要がある。

・　現行の協定書・覚書等の修正が必要であると考えられる事項に対して要望を整理する。

【達成状況】

➢　指定管理者負担金の減額について協議しているが、要求は満たされていない。

➢　「地域包括医療病棟」を整備して地域包括ケアの強化を図り、収支改善の成果を挙げるため氷見市から令和６年度から令和９年度の４年間に総額５億円の支援を受ける覚書を締結した。

（８）部門システムの更新（病院情報システムの計画的な更新）

【中間評価】C　　【達成度】A

○　開院以来 17 年目を迎え、薬剤部や医事課等の各部門システムが老朽化し、故障等でシステムが停止すると多大な影響が出るため、中期計画に沿って更新を行う。また、診療報酬等の改正に臨機応変に対応するため、システムを更新する。

・　薬剤部の調剤支援システム更新、薬剤マスターセットパスコード機能追加、医事課の返戻再請求歯科レセプト電算機能追加や文書作成システム（難病・小児慢性オンライン対応）更新等を行う。

【達成状況】

➢　調剤支援システム、薬剤マスターセットパスコード機能追加、返戻再請求歯科レセプト電算機能追加、文書作成システム（難病・小児慢性オンライン対応）の更新を実施した。

【その他の年度事業】

（1）氷見市との連携

① 公立病院経営強化プラン

【中間評価】B　　【達成度】C

・ 将来を見据えた健全な病院経営を目指し、2023年度に作成した「公立病院経営強化プラン」に基づき、経営改善計画を実行する。

【達成状況】

➢ 令和6年6月の診療報酬改定により一般病棟の医療収入は減少となったが、回復期リハビリテーション病棟入院料、入退院支援加算等の施設基準取得により目標とする医療収入の確保を図った。

② 医師、看護師、薬剤師の確保

【中間評価】B　　【達成度】B

・ 氷見市における修学資金制度（医師・看護師・薬剤師）を最大限に活用し、人材の確保を行う。

【達成状況】

➢ 看護師は、国試の結果27名の採用となり、令和7年4月には人員が充足する見込みとなっている。
➢ 看護師の修学資金については一定数利用者がいる。
➢ 薬剤師については、応募がない状態であり、大学からの派遣を依頼している。
➢ 臨床研修医については、定員以上の応募があり、3名フルマッチとなったが、2名が卒延となり、1名の採用となった。

（2）令和6年能登半島地震に伴う能登地区への支援

【中間評価】B　　【達成度】A

・ 医師や看護師等の医療従事者が穴水町（公立穴水総合病院）はじめ、輪島市・珠洲市などの能登北部地域の医療機関・避難所等を訪問し、被災者に対する医療支援を行う。
・ 避難所生活にて発生しやすい疾病（感染症、血栓症等）などの被災者に対する心身のケアを行い、地域医療に寄与する。

【達成状況】

➢ 公立穴水総合病院への災害派遣を5度行い、仮設住宅を訪問し健康相談を行い住民に講演を行った。

（3）経営管理指標
【中間評価】B　　【達成度】B

	令和６年度目標	令和６年度実績
一般病棟　平均在院日数	17 日	18.0 日
新入院患者数	12 人／日	9.3 人／日
入院患者数	193 人	183.5 人／日
入院単価	50,000 円	50,522 円
回復リハ病棟患者数	41 人	38.5 人
病床稼働率	78%以上	73.4%
外来患者数	521 人／日	535.8 人／日
外来単価	12,000 円	11,876 円
患者紹介率	37%以上	31.8%
手術件数	1,260 件／年間	1,482 件
重症度、医療・看護必要度	32%の確保	24%
医療収入	51 億 8 千万円	50 億 3,738 万円

※ 入院単価は回復期病棟を除く一般病棟の値

【達成状況】

- 急性期一般入院料が１から３となり、医療収入の減少となったが、回復期リハビリテーション病棟入院料３から１へ格上げ、入退院支援加算１や入院時支援加算等の施設基準取得により、これまでの減収を補い、医療収入の確保を図った。

⑥収益事業の状況

金沢医科大学氷見市民病院　損益計算書及び貸借対照表

《損益計算書》

医業収益

医業収益は、前年比９千万円増の５０億７千６百万円となった。うち、入院収益は前年比１億２千万円増の３１億９千８百万円、外来収益は前年比１千万円増の１８億５千３百万円。

医業費用

医業費用は、前年比２億７千万円増の５８億９千９百万円で、うち、材料費が前年比６千２百万円増の１４億１千９百万円、給与費が前年比８千４百万円増の３１億６千万円、委託費は７億９百万円、設備関係費が１億５千３百万円、その他の経費で２億８千７百万円、氷見市へ支払う指定管理者負担金は前年比１千６百万円増の１億７千１百万円。

医業外収益

医業外収益は、計５億３千万円で、うち氷見市からの交付金など補助金収益は前年比４千２百万円増の５億２千３百万円。この中には病院収支改善支援交付金１億２千５百万円を含む。

経常利益

以上の損益計算の結果、経常利益は２億９千３百万円の支出超過となった。

《貸借対照表》

資産の部 合計は前年比２億８千１百万円減の１１億１百万円、負債の部 合計は前年比５千５百万円増の１４億１千９百万円となった。

流動資産

前年比４千２百万円増の１１億１千４百万円となりました。うち、現金預金は４百万円、未収入金は１０億７千１百万円、貯蔵品は４千１百万円。

固定資産

機器備品の取得などで、２千８百万円となった。

流動負債

前年比２千６百万円減の６億９千１百万円となった。うち、未払金は４億８千４百万円、預り金は５千万円、賞与引当金は１億５千７百万円。

固定負債

退職給付引当金は、前年比１千６百万円増の７億１千８百万円となった。

純資産

大学会計からの収益事業元入金は、３億４千４百万円増の３億９千７百万円となりました。また、利益剰余金は２億９千３百万円減少し、累積損失は６億６千４百万円となった。

金沢医科大学氷見市民病院　損益計算書及び貸借対照表

《損益計算書》

（単位：百万円）

科　目	決算額 金額	前年比 金額	科　目	決算額 金額	前年比 金額
医業収益	**5,076**	**90**	**医業費用**	**5,899**	**270**
入院収益	3,198	120	材料費	1,419	62
外来収益	1,853	10	給与費	3,160	84
受託事業収益	5	▼41	委託費	709	54
施設設備利用収益	20	1	設備関係費	153	26
			経費	287	28
			指定管理者負担金	171	16
			医　業　利　益	**△ 823**	**▼180**
医業外収益	**530**	**41**	**医業外費用**	**0**	**▼3**
寄付金収益	0	▼1	補助金返還金	0	▼3
補助金収益	523	42			
雑益	7	0	**経　常　利　益**	**△ 293**	**▼136**

《貸借対照表》

（単位：百万円）

科　目	決算額 金額	前年比 金額	科　目	決算額 金額	前年比 金額
流動資産	**1,114**	**42**	**流動負債**	**691**	**▼26**
現金及び預金	4	0	未払金	484	▼26
未収入金	1,071	39	預り金	50	▼1
徴収不能引当金	△ 6	1	賞与引当金	157	1
貯蔵品	41	4	その他	0	0
その他	4	▼2	**固定負債**	**718**	**16**
固定資産	**28**	**▼1**	退職給付引当金	718	16
工具器具備品	218	▼7	**負債の部合計**	**1,409**	**▼10**
減価償却累計額	△ 190	6	**純資産**	**△ 267**	**51**
車輌	1	0	元入金	397	344
減価償却累計額	△ 1	0	利益剰余金	△ 664	▼293
			純資産の部合計	**△ 267**	**51**
資　産　の　部　合　計	**1,142**	**41**	**負債・純資産合計**	**1,142**	**41**